

## 森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別講習会（東北）

開催日：2015年7月17日（金）

場所：宮城県加美町（調査地点コード 040180）

講師：石塚（森林総研本所）・篠宮・小野（森林総研東北支所）

### ○概要

平成27年度、東北ブロックを担当する（株）宮城環境保全研究所を対象に、東北地域講習会を実施した。参加した5名全員が昨年度に引き続きの受講である。台風11号の影響で開催が危ぶまれたが、当日は曇りであったので、予定通り行った。調査地点は宮城県北西部に位置する加美郡加美町の袖番坂国有林内のアカマツとミズナラを主とする落葉広葉樹林である。東北自動車道古川ICから1時間弱で駐車場所に到着し、そこから約100mと比較的アクセスの良い場所であった。

講習会は9時30分に開始した。受講生全員が本事業の調査経験者であり、調査時の役割分担が決まっていることから、これまでと同じどおり調査を進めてもらい、講師側は方法が違っている場合や精度に問題がある場合など、必要に応じて助言、指導するような形式で実施した。

まず、調査地に到着後、担当者がお互いに声を掛け合って杭を探し、10分以内に全ての杭を確認した。次に南北方向の概況調査、ライン長測定を行い、引き続き枯死木調査を全員で実施した。南北方向の調査終了後に、受講生の一部が引き続き東西方向の概況・ライン調査と枯死木調査を行い、残りがN・S地点の堆積有機物・土壌炭素量調査に取り掛かった。講師側も枯死木調査、堆積有機物・土壌炭素量調査に分かれて対応した。枯死木調査では、萌芽している根株は測定しないが、株立ちしている立枯木はすべて測定するよう指導した。堆積有機物・土壌炭素量調査に関しては、N地点の堆積有機物・土壌炭素量調査位置の決定の際に、2mの地点に立木があり、さらに2m移動した先にも立木があった。この場合どこで調査すべきか質問されたので、指定の位置とそこから延長した2m地点の間で調査地点を定めればよいと説明した。堆積有機物・土壌炭素量調査では、出来る限り調査を実施し、なるべく欠測が少なくなるよう努力してほしいと言いつつ添えた。また、堆積有機物試料採取の際に杵の設置場所が土壌断面に近かったので、断面から10cm程度離して設定することを指導した。さらに、化学分析用試料より定体積試料を先に採取しようとしたので、方法書にしたがって化学分析用試料を先に採取するよう指導した。今回の調査地点では明瞭なH層は見られなかったが、H層の形態的特徴を説明し、出現した場合には採取するように指導した。さらに堆積有機物層と鉍質土壌層の境界判定についてその重要性和判別手順を説明した。様式A-5の断面スケッチについては、堆積有機物層の状態、礫の大きさとその位置、根の分布がおおよそ判別できればよいと伝えた。

午後は、S地点の土壌断面を埋戻し、W地点の調査を開始した。宮城環境保全研究所の方は作業の流れをよく理解し、作業分担も明確で、円滑に作業は進められた。W地点の15～30cmの層位では直径10～20cmの礫が存在していたので、ブロックサンプリングが必要

かどうか、担当者全員が集まって議論した。その結果、まず円筒での採取が可能そうな、土壌断面の右側で試み、うまくいかない場合はブロックサンプリングを実施することになった。今回は円筒で定体積試料を採取することができたが、今後の調査においてブロックサンプリングの必要性に迫られる場面が想定されることから、礫が多かった層位でブロックサンプリングの練習を行った。15時頃に全作業を終了し、駐車場所に帰り、試料の確認・リスト作成を行った。最後に講師が全体総括を行い、解散した。

今回の講習会を通じて、受講者は全般に遅滞なく作業を進めており、全員が本調査に対して理解度が高いことを確認した。一方で、今年度第1回目の調査であったため、堆積有機物採取枠を置く位置や化学分析用試料と定体積試料を採取する順序が方法書と異なるなど、いくつか間違いがあった。本事業の経験のある業者に対しても、本格的な調査に入る前に手順・方法を再認識してもらうために地域講習会を行う意義は大きいことを実感した。



調査を開始する前、講習会の概要や進め方について説明した。



概況・ライン調査における林相写真の撮影。



N地点の堆積有機物・土壌炭素量調査の場所を決定しているところ。



W地点の礫が多かった層位を対象にブロックサンプリングの練習に取り組んでいた。